

研修参加報告書

令和 6年10月29日

会 派 名 江南クラブ
会派代表者 稲山 明敏

参加者；藤岡 和俊

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和6年10月21日（月）～22日（火）
研修時間	10月21日（月）13：00～17：30 10月22日（火）9：00～15：15
研修場所	全国市町村国際文化研修所（J I A M）
研修内容	令和6年度 市町村議会議員研修 [2日間コース] 「議会改革を考える～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～」 10月21日（月） 13：00～14：30 演題；地方議会の展望 講師；北川正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事） 14：45～15：30 演題；「議会改革度調査」から見る地方議会 講師；中村健氏（早稲田大学マニユフェスト研究所事務局長） 15：45～17：30 住民参加・情報公開を進める取組① 講師；上田朋和氏（石川県加賀市議会副議長） ※コーディネーター中村健氏 18：00～ 交流会 10月22日（火） 9：00～10：45 住民参加・情報公開を進める取組② 講師；高橋たい子氏（宮城県柴田町議会議長） ※コーディネーター中村健氏 11：00～11：40 各議会における今後の議会改革推進の検討（進め方の説明） 12：40～15：00 各議会における今後の議会改革推進の検討（グループ討議） 講師；中村健氏（ダイアログ・発表・講評）

研修参加報告書

■目的

議会改革の分野について、住民参加や情報公開における最新の動きを取り上げ、制度や問題について理解を深めながら、江南市議会での議会改革における諸課題について考える。

■内容

令和6年度 市町村議会議員研修 [2日間コース]

「議会改革を考える～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～」

10月21日(月)

13:00～14:30

演題：地方議会の展望

講師：北川正恭氏（早稲田大学名誉教授、元三重県知事）

三重県議会議員になった52年前には「住民への説明責任」という言葉はなかった。国政へ出た頃地方分権改革を進める決議（1993年）が決まり、ここで中央集権体制だった日本が大きく変わった。1995年に地方分権推進法、2000年の地方分権一括法から国と地方は上下主従から対等協力へと変わった。機関委任事務の全廃は大きい。

定員削減、報酬削減、政務活動費削減は改革ではない。手段の変化であり、自分たちが間に合わなかったという証拠である。

議会が変わらないと執行部は変わらない。議員間討議は大切である。個人の一般質問は空気銃であり、議会全体で話し合えば大きな力になる。

議会事務局の職員の数が少なくて、政策提案はできない。議会事務局の職員を含めて、チーム議会として議会改革を進めてほしい。

議会から地方を変え、地方から国を変える。

14:45～15:30

演題：「議会改革度調査」から見る地方議会

講師：中村健氏（早稲田大学マニフェスト研究所事務局長）

27歳で徳島県川島町長になった。

デジタル化の推進。熊本地震の際、市長は1か月在宅ワークをし、これまで3か月在宅ワークをしたが問題はなかった。高齢者がデジタル町内会を開催し、小学生がタブレット端末を使って道路整備を提案した。市役所職員の机の配置もデジタル会議が行われることを前提とした配置へと変わった。

デジタル化の推進により「来ない」「書かない」「待たない」市役所ができ、市長秘書室も廃止できる。

議会を傍聴するのに受付で住所や名前を書かせているか。主権者である市民が議会を傍聴したいと言っているのに、なぜ関所を設けるのか。

太田市議会HPより「本会議の傍聴では、住所・氏名のご記入は必要ありません。また、乳幼児や児童の入場も可能です。」

講師の中村健氏は、日本全国の議会へ傍聴に行っているが、氏名を書く際いつも「山田太郎」と書いている。東京都議会はセキュリティチェックがあり厳しいが、「山田太郎」で入れた。つまり名前を書く意味はない。これを機会に廃止してはどうか。

15:45～17:30

住民参加・情報公開を進める取組①

演題：「加賀市議会の取り組み」

講師：上田朋和氏（石川県加賀市議会副議長）

※コーディネーター中村健氏

議会報告会では、全員が意見を言うグループトーク方式にしている。ここで重要なのは議員のファシリテーターとしての能力である。ファシリテーション研修も実施している。

小・中学生が議会の傍聴している。主権者教育として、議会おでかけ教室も開催している。議会活性化特別委員の2名が、小・中学校で授業を行う。子ども議会、高校生議会、女性議会への取り組みをしている。

読書活動推進条例、デジタル技術の活用による持続可能なまちづくり条例、スポーツ推進条例など多くの議員提案条例を策定している。

また、議会アンケートも行っている。

18:00～

交流会

今回は96名の議員が参加をしており、多くの議員の方と意見交換をすることができた。特に今回は町村議会の方が多かった。基本的に町村議会では政務活動費はないため、私費での参加になる。それでもこれほど多くの方が参加をされていて、とても議会改革に前向きな議員が集まった。

10月22日（火）

9:00～10:45

住民参加・情報公開を進める取組②

演題：「体系的な議会政策サイクルとICT技術を活用した情報発信・交流で住民の声や災害に対応できる議会へ」

講師：高橋たい子氏（宮城県柴田町議会議長）

※コーディネーター中村健氏

「ワールド・カフェ」形式の自由討議が最大の特徴である。議員全員での討議であるが、数名ずつのグループに分かれて意見を交わし、1名を残してグループのメンバーを変えて、また討議をする。誰でもが意見を言えるようになるため、「言える化議会」と言っている。

議会のホームページでは Google カレンダーを活用した議会の行事等のお知らせをしている。デジタル化が進むと災害にも対応できる。

コロナ禍でもオンラインで一般懇談会や議会運営委員会も開催した。

思っているだけではだめで、小さな声でもよいので声に出さないため。議会が終わってからも討議を行っている。これからもどんどん改善していく。

11:00～11:40

各議会における今後の議会改革推進の検討（進め方の説明）

12:40～15:00

各議会における今後の議会改革推進の検討（グループ討議）

講師；中村健氏

【演習】ダイアログ・発表・講評

19班に分かれて演習（意見交換）を行った。

私と同じ19班になったのは、

- (1) 市川真未議員（静岡県富士市議会）
- (2) 八木良人議員（滋賀県草津市議会）
- (3) 錦織伸行議員（島根県松江市議会）
- (4) 木寺智子議員（佐賀県伊万里市議会）
- (5) 藤岡和俊（愛知県江南市議会）

※長野県安曇野市議会議員は欠席

※写真の中央は講師の中村健氏

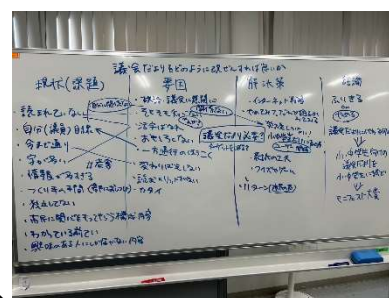
グループ討議のテーマを、

「議会だよりをどのように改善すれば良いのか」とし、議会だよりが必要であるのかも含め、討議を行った。

江南市のように広報の中に議会のページがあるという議会はなかった。どの議会も独自の議会だよりを発行している。市民の10%も読んでいないのではという感想が聞かれた。

若い世代が高齢者など、ターゲットを絞ることも必要である。そのため、小・中学生対象の議会だよりを作ってはという意見が出た。学校へ配布すると、自宅へ帰って家族と話をすることもあろう。

若い世代は紙を読むより、スマホでの情報発信が有効ではないか。



■所感

今回のテーマである議会改革について、様々な意見交換を行い考え方や取り組み方について深く学ぶことができた。特に、議会改革というテーマのためか、1期生、2期生の議員や、若い世代の議員の参加が多く、参加した議員は、皆がとても熱心で、どうにかして議会を変えていきたいという考えを持っていた。

他の議会での取り組みにも学び、自らも考え、江南市議会に適したことがあれば、市民に開かれた議会に向けて、実行できるよう進めていきたい。

